

これまでのご意見と計画素案への対応表

	発言者	これまでのご意見概要	対応案等
個別施策 以外	白鳥委員	○ 創造都市を記載すべき。	○ 創造都市について計画本書に記載することを想定。
	北海道科学 大 小谷氏	○ メディアアーツ都市についてわかりやすく伝えるべき。	○ メディアアーツ都市についても計画本書に記載することを想定。
	成田委員	○ 文化芸術の価値について、本質的価値の無い文化芸術は無いと思うため、図の修正をすべきではないか。	○ 図について修正。
施策1	根子委員	○ 外国人労働者が増えてくると考えると、多文化共生の視点が重要になってくるので、文化芸術の面でのつながりも考える必要がある。	○ 施策1-1の中に「言語の違い」を追加。
	ト部委員	○ アールブリュットを取り入れてほしい。	○ 施策1-1の重点取組事項に「誰でも芸術に親しめる環境の整備」を設定。 ※ 当初は別項目を立てようと考えたが、インクルーシブな考え方が重要とのことなので、「親しむ機会の提供」の中の重点取組事項として整理。
	北海道アールブリュットネットワーク協議会 大友氏	○ 福祉分野では共生社会の実現に向けた取り組みが進んでいる。障がいのある人でも芸術家として社会や人々に豊かさや幸福を与えてくれる人が多くいる。芸術文化においても共生社会的なあり方を目指してほしい。 ○ 障がい者が芸術文化を当たり前で享受できる環境として、創作・発表だけでなく鑑賞など（情報保障を含む）も整備を進めてほしい。 ○ 文化芸術施設がハード面、ソフト面ともに当事者にとって問題なく使えているのかの確認をしても良いと思う。	
文団協 伊藤氏	○ 公演を行うものについては、場の確保に苦労している。中心部でかつ1,000人程度の規模の会場がなかなか確保できない。 ○ 特に邦楽邦舞などの和の後継者不足が深刻であるという声を聴いている。後継者・担い手となってもらうためには、まず文化に親しむ機会を作ることが重要。	○ 施策1-2の重点取組事項として「今後のホールの在り方検討」を設定。 ○ 多様な文化芸術に親しむ機会については、施策1-1で取組を進める。	
施策2	佐藤委員	○ 実際にもものに触れて体験するということが大切で根本的なもの。そういうものに触れる機会を増やすことが本質だと思う。	○ 子どもの機会の充実（施策2-1）に「体験」という文言を追加。

	発言者	これまでのご意見概要	対応案等
施策2	ト部委員	○ 家庭環境に左右されない義務教育の中で文化芸術体験を実施することが望ましい（お届けアートが年3校は少ない、ハローミュージアムももっとやったらよい）。	○ 学校との連携による取組は重要であることから、第三期計画の施策2-1中の「学校や民間の文化芸術団体の活動とも連携しながら」を継承する。 ○ 加えて重点取組事項として、「学校との連携」を設定。 ○ 家庭での鑑賞機会については、親子連れのためのコンサートや低料金のコンサートなども実施しており、継続して様々な方が文化芸術に触れる機会を提供する取組を進める。
	子ども教育委員会会議	○ 学校での体験は、興味の有無にかかわらず、みんなが行うこと。家庭で行けないところでもいくことができる。 ○ 学校で体験して興味を持てば家庭でも行くことにつながる。 ○ 家庭で行く機会を増やすには、親子連れや小中学生を無料にすることや小さい子のいる家が行きにくいので親子連れ専用の日を作る。	
	谷本委員	○ 多様性の尊重も非常に重要で、アイヌ民族の歴史文化を文化芸術の枠でどう考えていくのか、アイヌ民族の文化振興を検討してほしい。	○ これまでアイヌ文化については、施策3-1「文化遺産・自然遺産の保存と活用」にのみ記載があったが、ステージ2やステージ3の他の施策など、計画全体にアイヌの文化や芸術を位置づける。 ※ 文化財の保存・活用についても同様に子どもたちの啓発も必要であることから施策2-1に追加。
	丸山委員	○ 担い手の支援が重要ではないか。	○ 『中間支援団体を通じた伴走型支援の仕組みの検討』を施策2の重点事項として設定。
	佐藤委員	○ 担い手が重要で、学芸員などの専門家の確保とボランティアの確保が大切であり、例えば芸術祭のボランティアを本祭期間以外にもつなげていくことが必要。	○ 学芸員を増やすことは札幌市の取組としては早急に対応することは難しいものと認識。専門家の育成という意味ではアートマネジメント機能の拡充を目指し中間支援を実施する。 ○ ボランティアの確保については、重要な課題であることから、具体事業の検討はこれからだが、第3期の「ボランティアへの支援を進めていきます」を継承する。
	長沼委員	○ 市内アーティストに刺激を与えるために比較的長期間、力のあるアーティストに札幌に来てもらうべき。	○ アーティストへの刺激について、施策2-2に「市内のアーティストが道外のアーティストから刺激を受け、レベルアップできる環境を目指します」の文言を追加。 ○ AIRはアーティスト支援（施策2-2）とまちづくり（施策3-2）、国内外への魅力発信（施策3-3）に位置付ける。
	谷本委員	○ 海外派遣などの人材育成を手当てができないか。	
成田委員	○ 来てもらうのも大切だが、AIRで札幌を見て帰ってもらうことも大切。		

	発言者	これまでのご意見概要	対応案等
施策3	長沼委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 博物館も大切。 ○ 文化財未指定のものの発掘も大切。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 博物館は施策3-1の重点取組事項に位置付け。 ○ 未指定の文化財の発掘は、これまでの取組に加え、今回新たに取り組む札幌市地域文化財認定制度で取組を進める。
	成田委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 博物館が進めば良いなと思っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 博物館は施策3-1の重点取組事項に位置付け。
	成田委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自然遺産は文化ではないのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自然遺産は札幌の文化や歴史の基盤となった自然を後世に伝える文化財の一種として考えられるため、記載を維持。
	谷本委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 札幌市地域文化財認定制度でエントリーしてくる人たちは、こうしたことに関心が深い人たちなので、そういう方々と連携していくことが活用に繋がっていくと考える。そう思うと助成を絡めた方が良いのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「地域文化財認定制度」は、未指定・未登録の文化財について発信することで、その価値や魅力を広く伝え、文化財保護の機運醸成を図ることを目的としていることから、補助金等の金銭的な助成は現時点では考えていない。 ○ 当該制度より文化的価値が高い「市指定文化財」に対する補助要綱がないことから、まずは「市指定文化財」に対する補助要綱の制度化を目指していく。
	白鳥委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ コロナ禍においても「伸びている」や「社会が求めている」ものはやるべきものではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 施策3-2の重点取組事項で「マンガ等のポップカルチャーを活用した取組の検討」を位置づけ。
	根子委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 札幌のプレゼンスを高めるための文化芸術もあると考えており、サブカルチャー的なものや若者目線を入れてもよいのではないかと。アニメや漫画なども含めて少し広く芸術をとらえて若い人も巻き込んでいくことも重要ではないかと。 	
	北海道科学大 小谷氏	<ul style="list-style-type: none"> ○ 近年、美術系大学では美術学科のファインアート（純粋芸術）を希望する子どもたちの減により、マンガ学科を作るなどポップカルチャー系の学科を新設するところやコンピュータ等の最新デジタルとアートを組み合わせたアート（アートサイエンス）の学科を新設するところが増えている。 ○ 札幌市でマンガミュージアム的な話もでてきているようだが、どこまでやるのかは別として、マンガなどのポップカルチャーを取り込んでいくことは時代の流れだろう。 	

	発言者	これまでのご意見概要	対応案等
施策3	丸山委員	○ 企画する側が他分野をどれだけ意識できるかが大切。	○ 施策2-2の重点取組事項である『中間支援を通じた伴走型支援の仕組みの検討』を施策3-2でも再掲。
	北海道科学大 小谷氏	○ 異分野連携を進めるためには、連携する両方の分野のことを知っている人がつなぐことが大切と思う。	
	白鳥委員	○ まちづくりと文化芸術の関係を基本計画の中に明確に謳っていきたい。 ○ 文化と他分野の連携強化についてどういうところでどうしていくのかを整理しながら謳った方が良い。 ○ DM0との連携を進めるべき。 ○ アーツカウンシルについての研究が必要。	○ まちづくりについては、施策3-2に文化芸術の活用先として「まちづくり」を記載。 ○ まちづくりを含めた異分野連携（DM0含む）については、施策2-2の重点取組事項にある中間支援やアーツカウンシルの検討の中で整理していくことを想定。
	根子委員	○ 交流人口の拡大は札幌市にとって大きな課題だと思っており、単に市民が楽しむだけでなく、外から人を呼び込むということはSIAFもそうだと思うし、PMFもタングルウッドのようになってほしいと思う。アドベンチャートラベルワールドサミットの中でアイヌや縄文文化を取り上げてほしいという要請もあるので、外向きに発信する手段としても考えてほしい。	○ アイヌについては観光プロモーションの推進を現状においても進めていることから、現行の取組事業例に追加。 ○ 縄文文化については、世界文化遺産となっている北海道・北東北の縄文遺跡群に札幌市のものは入っていないが、北海道と連携してパンフレット等の配布やイベント協力を実施中であり、これらの取組を継続する（そのほか、丘珠縄文遺跡において外国語版リーフレットを整備）。
	白鳥委員	○ 雪まつりと国際芸術祭が連携すると言っているが、そうしたことも踏まえて、札幌の経済と文化は密接に結びついた方が良い。	○ 各種文化イベントについては、本市の他のイベントと連携するなどにより経済効果を一層生むことが可能と考えられるため、施策3-3の重点事項として「他のイベント等との効果的な連携の検討」を追加。
活性化の仕組み	白鳥委員	○ お金をどのように集めるかも計画中に謳えないか。	○ 将来の文化芸術を活性化させるための仕組み内に「民間活力等の活用」を設定し、そのなかで寄附に係る広報についても記載。
	長沼委員	○ 大規模イベントについての振り返りなどは必要なのではないか。	○ 事業の評価検証の文中に「計画期間中においても必要な見直しを進める」を追加。
	成田委員	○ 将来の文化芸術を活性化させるための調査研究がなくなっていることがすごく気になる。	○ 調査研究については、将来の文化芸術を活性化させるための仕組み内に「将来の文化芸術活動を活性化させるための調査研究」を設定。